

桃山学院大学と和泉市教育委員会との連携協力に関する協定の締結について

学校教育室

1. 経過

- ・令和4年7月に桃山学院教育大学と和泉市教育委員会が連携協定を締結
- ・令和7年4月に桃山学院教育大学と桃山学院大学を統合し、桃山学院大学に人間教育学部を新設
- ・それに伴い、令和7年3月31日付で桃山学院教育大学と和泉市教育委員会の連携協定を廃止し、4月1日付で桃山学院大学と和泉市教育委員会が連携協定を締結

2. 協定の内容

次に掲げる事項について、相互に連携協力して行う

- (1) 学校現場のニーズを踏まえた教員養成に関すること。
- (2) 教職員の資質向上のために必要な研修に関すること。
- (3) 甲の学生等による乙の教育活動の支援に関すること。
- (4) 教育上の諸課題に係る調査及び研究に関すること。
- (5) その他双方が必要と認めること。

3. 桃山学院大学と和泉市との包括連携に関する協定

平成19年から桃山学院大学と和泉市が包括的な連携について協定を締結しているが、今回の協定については、教育委員会と教育分野に特化した連携協力について締結するもの

桃山学院大学と和泉市教育委員会との連携協力に関する協定書

（目的）

第1条 桃山学院大学(以下「甲」という。)と和泉市教育委員会(以下「乙」という。)とは、相互に連携協力して、教員養成の充実、学校教育活動及び教職員の資質向上の支援をすることを通じて、教育上の諸課題等に適切に対応することにより、甲及び乙の教育・研究活動の充実・発展に資するものとする。

（内容）

第2条 甲と乙とは、相互に連携協力して、次に掲げる事項を行う。

- (1)学校現場のニーズを踏まえた教員養成に関すること。
- (2)教職員の資質向上のために必要な研修に関すること。
- (3)甲の学生等による乙の教育活動の支援に関すること。
- (4)教育上の諸課題に係る調査及び研究に関すること。
- (5)その他双方が必要と認めること。

（方法）

第3条 甲と乙とは、前条の規定による連携協力(以下「連携協力」という。)をするに当たり、教職員、学生等の派遣及び受入れ、施設設備等の利用その他必要な事項について、業務に支障のない限りにおいて、相互に便宜を図るものとする。

（経費）

第4条 連携協力をするために必要な経費の負担については、甲乙協議の上、決定する。

（有効期間）

第5条 この協定書の有効期間は、令和7年4月1日から令和8年3月31日までとする。

ただし、この協定書の有効期間満了の日の30日前までに、甲と乙のいずれからも書面をもって改廃の申入れがない場合は、さらに1年間更新するものとし、その後も同様とする。

（補則）

第6条 この協定書に定めるもののほか、連携協力に関する細目については、甲乙協議して定めるものとする。

- 2 この協定書に定める事項について疑義が生じたときは、甲乙協議して解決を図るものとする。
- 3 この協定書は、2通作成し、甲乙双方が各1通を保有する。

令和7年 月 日

(甲) 和泉市まなび野1-1
桃山学院大学
学長

(乙) 和泉市府中町二丁目7番5号
和泉市教育委員会
教育長

「2026年和泉市はたちのつどい」に係る開催部数変更について

生涯学習推進室

「2026年和泉市はたちのつどい」について、参加対象者数の減少に伴い、効率的かつ適正な規模での運営を行うため、4部制から3部制の実施に変更を行うものです。

1. 変更前(2025年和泉市はたちのつどい)

部	時間	中学校区	参加者数	対象者数	参加率
第1部	10時00分～11時00分	和泉・南池田	460	599	76.8
第2部	11時30分～12時30分	槇尾・郷荘・光明台	374	419	89.2
第3部	13時30分～14時30分	南松尾はつが野・北池田・富秋	287	424	67.7
第4部	15時00分～16時00分	信太・石尾	367	550	66.7
計			1,488	1,992	74.7

2. 変更後(2026年和泉市はたちのつどい)

部	時間	対象中学校区	対象者数(見込)
第1部	10時00分～11時00分	和泉・南池田・ 槇尾	561
第2部	11時30分～12時30分	郷荘・光明台・ 信太	559
第3部	13時30分～14時30分	南松尾はつが野・北池田・富秋・ 石尾	560
計			1,680

【日時】令和8年1月12日(月・祝)

【開催場所】和泉シティプラザ 弥生の風ホール

【対象者】平成17年4月2日から平成18年4月1日の間に生まれた方

※見込み対象者数は、2020年時点中学3年生の数

【内容】式典・アトラクション 等

【主催】和泉市・和泉市教育委員会

【企画】「和泉市はたちのつどい」企画委員会

3. 実績(参考)

	2022	2023	2024	2025	2026(見込)
対象者数(人)	2,219	2,174	2,055	1,992	1,680
参加者数(人)	1,696	1,614	1,582	1,488	-
参加率(%)	76.4	74.2	77.0	74.7	-

セネガル共和国への和泉市長公式訪問団の派遣報告について

生涯学習推進室

2020東京オリンピック・パラリンピックの際、和泉市がホストタウンとなったことから交流がスタートしたセネガル共和国へ、万博国際交流プログラムを活用し、市長公式訪問団を派遣しました。

①派遣期間

令和7年1月27日（月）～2月2日（日） 3泊7日

②派遣メンバー

市長／教育長／教育次長兼生涯学習部長／スポーツ振興担当課長 計4名

③派遣の目的

大阪・関西万博を契機とし、万博やスポーツを通じた今後の相互交流について意見交換し、相互理解を深め協力体制を構築する。

④主な活動内容

以下の政府関係者などを訪問し、意見交換を実施

◇経済関係

- ・セリーヌ・ゲイ・ジョップ 産業・通商大臣（大阪・関西万博セネガル代表）
※「和泉市とセネガル共和国産業・商業省との間における交流促進に関する協力覚書」を締結
- ・モデュウ・ンベネ・ゲイ セネガル輸出促進庁総裁
（大阪・関西万博セネガル副代表）

◇文化・スポーツ関係者

- ・ハディ・ディエン・ガイ 青少年・スポーツ・文化大臣
- ・ジャーニャ・ンジャイ セネガオリンピック委員会委員長
- ・オーギュスタン・サンゴール ゴレ市長兼セネガルサッカー協会会長

◇その他

- ・赤松 武 在セネガル日本特命全権大使

2024セネガル共和国
和泉市長公式訪問団派遣事業報告
(万博国際交流プログラム)

令和7年1月27日(月)～2月2日(日)

和泉市・和泉市教育委員会

■はじめに

セネガル共和国と和泉市の交流は、2020東京オリンピック・パラリンピックの際、和泉市が事後交流型ホストタウンとして登録したことから始まります。

ホストタウンは2020東京オリンピック・パラリンピックに参加する国・地域の住民等がスポーツ、文化、経済などを通じて交流し、地域の活性化等に活かしていくものですが、新型コロナウイルス感染症の影響により交流は実現しませんでした。

しかし、その後も駐日特命全権大使が複数回和泉市を訪問され、相互交流の意思が伝えられるなど関係は継続しており、和泉市においても市内小中学校の給食にセネガル料理を提供、Africa 子どもサミット2020に市内小学生が35名参加するなどセネガル共和国の文化に触れる取組みを進めてきました。

令和6年度は、内閣官房事業である万博国際交流プログラムを活用し、セネガル共和国との交流事業を進めています。万博国際交流プログラムは、2025年に開催される大阪・関西万博を契機に、地域住民と万博参加国・地域の関係者が、地方公共団体の事業を通じて継続的に国際交流していくための取組支援であり、和泉市が申請し国の審査を経て登録されました。

令和6年度は万博会期前の取組みとして、万博・セネガル共和国を紹介する動画を作成、小中学校の給食でセネガル料理を提供、小学校でのワークショップや音楽イベントなど万博やセネガル共和国の文化に触れ、理解を深める取組みを進めています。

この度、この万博国際交流プログラムの一環として、セネガル共和国を訪問し、万博やスポーツを通じた今後の相互交流について意見交換し、相互理解を深め、協力体制を構築するため和泉市長公式訪問団をセネガル共和国へ派遣しました。

■セネガル共和国について



国旗：赤色は独立の苦難と尊い血の犠牲、黄色は富と資源、緑色は農業と希望、中央の星は自由を象徴

■セネガル共和国

1960年に独立

総人口：約1722万人

面積：197,161 km²（日本の約半分）

言語：フランス語（公用語）、ウォロフ語など

宗教：イスラム教（約95%）、キリスト教など

主要産業：農業（落花生、粟、綿花）

漁業（まぐろ、かつお、えび、たこ）。

GDP：310.1億米ドル

対日輸入：93.8億円（合成繊維、鉄鋼、機械類等）（2023年（財務省））

対日輸出：55.9億円（金属鉱、魚介類等）（2023年（財務省））

在留邦人：227人（2024年10月現在）

進出日本企業数：24社（2024年10月現在）



■訪問について

1 和泉市長公式訪問団

和泉市長	辻 宏康
和泉市教育長	大槻 亮志
和泉市教育次長兼生涯学習部長	辻 公伸
和泉市生涯学習推進室スポーツ振興担当	富岡 大作

2 訪問期間

令和7年1月27日（月）～2月2日（日）

3 スケジュール

日時		内容
1月27日 （月）	22:30-翌05:40	TK087 関西国際空港→イスタンブール空港
1月28日 （火）	5:40-14:30	トルコ イスタンブール空港内にてトランジット待機
	14:30-19:15	TK503 イスタンブール空港→ブレイズ・ジャーニュ空港
	19:15-21:00	入国手続き後、宿泊地：ノボテル ダカールへ移動
1月29日 （水）	9:15-11:00	○セネガル輸出促進公社（ASEPEX）訪問 モデュウ・ンベネ・ゲイ総裁（万博担当副コミッショナー）と会談
	12:00-13:00	○在セネガル日本国大使館訪問 赤松大使及び大使館職員とワーキングランチ形式で現地事情説明（セネガル情勢、セネガルの万博への参加等）
	14:00-16:00	○オリンピック委員会訪問 ジャーニャ・ンジャイ委員長と会談

日時		内容
1月30日 (木)	10:00-12:00	フェリーにてゴレ島へ訪問 ゴレ島を視察
	14:00-16:00	○スポーツ省へ訪問 <u>ハディ・ディエン・ガイ</u> 青少年・スポーツ・文化大臣 と会談
	16:00-17:00	○ゴレ市長訪問（兼セネガルサッカー協会会長） <u>オーギュスタン・サンゴール</u> 市長と会談
1月31日 (金)	14:30-16:00	○産業省へ訪問 <u>セリーヌ・ゲイ・ジョップ</u> 産業・商業大臣（万博担当 コミッショナー）と会談、覚書締結
	16:00-18:00	ブレーズ・ジャーニュ空港へ移動
	21:00-翌 06:50	TK504 ブレーズ・ジャーニュ空港→イスタンブール空港
2月1日 (土)	6:50-15:25	トルコ イスタンブール空港内にてトランジット待機
	15:25-翌 08:45	TK050 イスタンブール空港→成田国際空港
2月2日 (日)	8:45-12:35	成田国際空港内にてトランジット待機
	12:35-14:20	JQ213 成田国際空港→関西国際空港



4 訪問等の様子

(1) セネガル輸出促進公社（ASEPEX）

モデュウ・ンベネ・ゲイ総裁（大阪関西万博セネガル副代表）

○会談の内容

和泉市での取組みの報告や大阪・関西万博での交流について総裁と面談及び
公社幹部と意見交換

- ・日本とセネガル共和国はJICAとの関係もあり、友好関係は受け継がれ、重視している。
- ・大阪・関西万博では新政権下で質の高い出展となっている。タイプB（300㎡規模）での出展であり、アフリカでは6か国のみ。
- ・4月13日の開幕には産業大臣が訪日。
- ・和泉市でのさまざまな取組みに感謝
- ・今後の交流について、在日本セネガル大使館や在セネガル日本大使館を通じて協力することを確認。

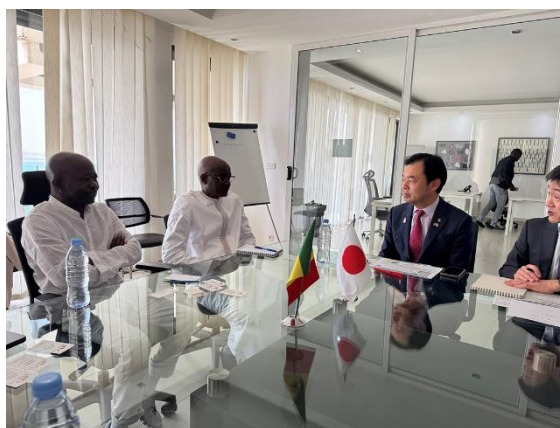


(2) オリンピック委員会

ジャーニャ・ンジャイ委員長

○会談の内容

- ・ アフリカ大陸で初めてのオリンピックスポーツイベントであるユースオリンピック・ダカール2026が開催されることを機会に関係を強化したい。
- ・ 東京オリンピックの効率のよい、管理された大会はモデルにしている。
- ・ ユースオリンピックについて、市民に知ってもらう機会を設け、機運上昇に協力したい。



(3) スポーツ省（スポーツ・観光、文化・歴史遺産、青少年）

ハディ・ディエン・ガイ大臣

○会談の内容

- ・日本とセネガル共和国の協力関係に感謝している。スポーツの分野では空手や柔道など日本から支援を受けている。
- ・ユースオリンピック・ダカール2026が開催されることを機会に交流を進めることや、セネガル共和国の地方自治体との交流も提案したい。
- ・今後の取組みについて、在セネガル日本大使館を通じて提案したい。

※撮影はできませんでした。

(4) グレ市長（兼セネガルサッカー協会会長）

オーギュスタン・サンゴール市長

○会談の内容

- ・グレ島は世界にひらかれた場所。日本からピアノの寄贈を受け、平和のピアノとしてグレ島に展示している。
- ・サッカーに長年携わっており、その関係で日本に訪れたこともある。ユースオリンピックの開催もあり、スポーツ交流などで協力できることもある。
- ・万博会期後にサッカー交流も予定しているので協力願う。



(5) 産業・商業省

セリーヌ・ゲイ・ジョップ大臣（大阪関西万博セネガル代表）

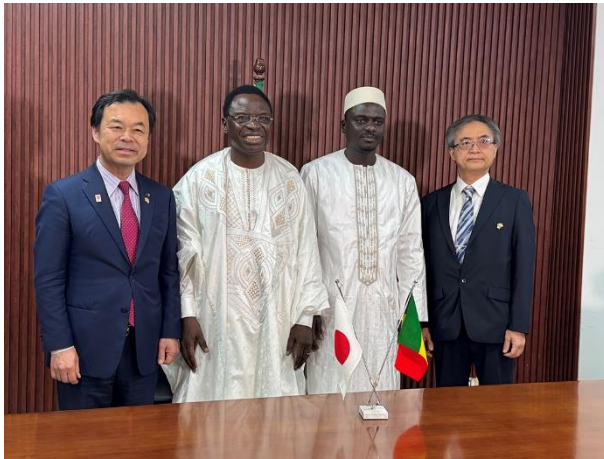
○会談の内容

- ・万博は重要なプロジェクトだと認識している。セネガルのノウハウを披露することや、今回は日本で行われることもあり日本の技術を把握することにも繋がる。また、和泉市でこういったことが行われているかを知る機会となる。
- ・前任の日本の大使とも、セネガル共和国が日本企業の投資の対象となるよう協議していた。
- ・4月13日の開幕には訪日する予定であり、その際は辻市長に会えたらうれしく思う。・万博で8月25日はセネガルデーとなっている。その直前にTICAD9（アフリカ開発会議）が東京で開催されるので大統領も訪日する予定。
- ・和泉市にはテクノステージという大きな産業団地があり、その企業とも交流できるよう協力する。
- ・教育の分野は重要だと考えており120万ドルを投じて高等学校を建設している。教育は日本が模範となっている。教育の分野でも何か協力ができたらと思う。

○協力覚書の締結

「和泉市とセネガル共和国産業・商業省との間における交流促進に関する協力覚書」

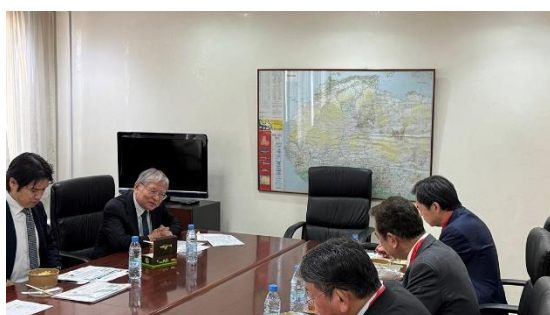




(6) 在セネガル日本大使館

赤松 治 大使（在セネガル日本国特命全権大使）

○赤松大使及び大使館職員とワーキングランチ形式で、セネガル共和国について、社会情勢などの説明を受け、和泉市の取り組みなど意見交換を行いました。

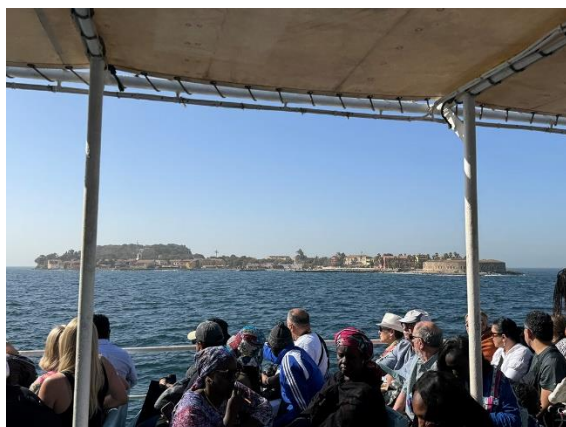


(7) ゴレ島視察

当初、ゴレ島にてゴレ市長へ表敬訪問する予定でした。急遽、ゴレ市長への訪問は夕方となりましたが、当初の予定どおりフェリーでゴレ島へ渡り、視察を行いました。

○ゴレ島

首都ダカールの沖合約3 kmに浮かぶセネガル領の島。1815年に統治国だったフランスが廃止するまで、奴隷貿易の拠点として栄え、世界遺産に登録されている。



■訪問団員 レポート

和泉市長 辻 宏康

セネガル共和国表敬訪問報告文

1月27日の22時30分に関空を出発し、トルコのイスタンブールを経由して、セネガルのダカールに到着しました。

イスタンブールでトランジットのため待機した7時間45分も合わせると、29時間45分の長いフライトとなりました。

今回のセネガル訪問は、東京2020オリンピック・パラリンピックで和泉市がセネガルのホストタウン登録をしたことがきっかけです。オリンピック開催の際は、コロナウイルス感染防止のため、ほとんど交流することができませんでしたが、オリンピック終了後、ゴルギ・シス在日全権大使や、伊澤在セネガル全権大使等セネガル関係の要人が和泉市を訪問してくださり、今回のセネガル訪問が実現しました。

ダカールはセネガルの首都で、市域は約82平方キロと、和泉市とほぼ同じです。そこに約210万人の人が生活しているのですから、かなりの人口密度です。

セネガルは旧フランス植民地で、1960年に独立しました。町並みは、今でも植民地時代のなごりを感じました。

セネガルの人はとても穏やかで、おもてなしの心を大切にしています。そして私の好きな言葉「ありがとう」を、日本語でよく使っていたので、驚きと同時にとても親近感を感じました。

アフリカの国々は、今後、世界平和や経済交流に、大きな影響を及ぼすと言われています。

今回の訪問では、輸出促進公社総裁、オリンピック委員会委員長、サッカー協会会長、スポーツ・文化大臣、産業大臣など、主にセネガル政府の要人と面談させていただきましたが、将来は、地域レベルでの交流を図りたいと考えています。セネガルとの縁が、将来の和泉市の発展につながるよう、2025大阪・関西万博で、さらなる交流を深めたく思っています。

■訪問団員 レポート

和泉市教育委員会教育長 大槻 亮志

セネガル共和国公式訪問

出発前「兎に角遠いところに長いこと行くから、事故なく怪我せず無事に帰ってくる」と、長い飛行時間で、飛行機、否、旅行そのものが不慣れな私はたくさんの不安を抱えていましたが、終わってみればあっという間の、今回のセネガル共和国の訪問でした。

令和7年1月27日に出発。約13時間飛行して中継地のイスタンブールへ到着。空港の大きさと物価の高さに驚きました。空港の建物は端から端まで3キロくらい（もっとかも）あり、お店がたくさん。そして、とどめはハンバーガーが160ユーロ＝3,200円！日本に来て買い物をしようと思う外国の方の気持ち、お徳感がすごくわかりました。

さて、その後7時間の飛行でいよいよセネガルに到着。

翌日から要人の方への訪問開始。その後、3日間車で移動しながら、産業・通商大臣、青少年・スポーツ・文化大臣、オリンピック委員会委員長、サッカー協会会長、輸出促進庁総裁などとお会いさせていただきました。

また、お昼や夕方のご飯時には通訳の方に案内してもらいながら、街中を歩くこともできました。大きなビルや立派なお家もありましたが、いわゆるドヤ街っぽいところもあり、なんとなく、子どもの頃の昭和の街並みの懐かしさを感じました。

お会いした、オリンピック委員長が「これまでの日本の発展は、自国が目標とする発展のモデルになっている」とおしゃっていた言葉はすごく印象に残っています。

セネガルはおよそ60年前に独立したが、この間内乱というものはほぼなく、また銃も禁止されており、周りのアフリカ諸国に比べ落ち着いた国であるという事もうかがいました。

確かに道行く人々からは、明るく、さっぱりした印象を受けました。例えば、物売りの方が声をかけてきますが、断るとそれまでで引いていきます。また、鉄道がほとんどなく、とにかく車社会なのに信号はほぼありません。右側通行なので右折車はそのまま曲がりますし、左折者もどんどん割り込んでいきますが、横入りといった感はなく、皆が上手に道を譲ります。そのことでもめて口論になっている場面は一度も見ませんでした。

ただ、いわゆる物乞いをしている高齢者や子どもたちも見かけました。教育格差、貧困も感じました。しかし、セネガル共和国は15歳から35歳が人口の半分を占めているという事も要人の方からうかがったので、未来を切り拓く人材の育成が重要だとも感じました。

今回は教育に関わった学校訪問などはできませんでしたが、2025大阪・関西万博を活用して、令和6年度には小学校でのワークショップ開催、動画制作・配信を行うほか、セネガル共和国との音楽交流イベントを行いました。さらに令和7年度には、万博会場や市内公共施設でセネガルの方々との交流を推進する事業を予定しています。

今後一層セネガルの方々との交流を深め、和泉市の子どもたちにもさまざまな新たな出会いをつくることができるようにしてまいります。

■訪問団員 レポート

和泉市教育次長兼生涯学習部長 辻 公伸

セネガル共和国への市長公式訪問を終えて

一昨年8月の姉妹都市アメリカミネソタ州ブルーミントン市、昨年11月の友好都市中国南通市の市長公式訪問に続くセネガル共和国への訪問となりました。これまでの市長公式訪問との違いは都市ではなく産業・通商大臣などの国の要人と直接会談するもので、準備段階から緊張と不安な気持ちが日々高まるものとなりました。

私的にもアフリカへの渡航は初めての経験であり、なんと言っても飛行時間片道合わせて約20時間、トランジット約7時間は非常にきついものでした。トランジット地のトルコ、イスタンブール空港は非常に大きくハブ空港として発展し続けています。最近でもANAが羽田、イスタンブール空港間を就航しました。空港は広くて免税店やレストラン等は数多くありますが、利用している人は少なくほとんどの人が無料の休憩所を利用していました。その要因は、瓶ビール1本約2600円、バーガーキングのチキンバーガーが約3200円など物価が非常に高いことが影響しているかもしれません。

セネガル共和国を訪ねて1番強く感じたことは、人間性が非常にやさしく特に男性は女性を大事にすることを強く感じました。女性の大臣は少ないものの幹部クラスは女性が非常に多いのも特徴でした。ちなみにセネガル共和国は一夫多妻です。

面談したのは産業・通商大臣、青少年・スポーツ・文化大臣、オリンピック委員会委員長、サッカー協会会長、輸出促進庁総裁ですが、話が盛り上がり今後の交流による効果が期待できそうかと思ったのは、産業・通商、輸出促進庁です。

令和7年度は、大阪・関西万博を通じたセネガル共和国との交流を、内閣府の助成金を活用して行います。今年度は、音楽交流イベントの開催をはじめ、小学校におけるワークショップの開催や動画の制作・配信などでセネガル共和国のことを深くしていただく機会を作りました。令和7年度も、和泉市のこども達をはじめ多くの市民の方々とセネガル共和国の方々が直接、交流しあえる取組を万博会場も含めて市内の公共施設で展開していきます。

東京オリンピック・パラリンピックのホストタウンとしてご縁をいただいたセネガル共和国のみなさま方に感謝するとともに、セネガル共和国からも多くの方々が和泉市に訪れていただくことを期待します。

■訪問団員 レポート

和泉市生涯学習部生涯学習推進室スポーツ振興担当課長 富岡 大作

セネガル共和国市長公式訪問について

今回、2020東京オリンピック・パラリンピックの際、和泉市がホストタウンを務めたセネガル共和国へ訪問してまいりました。一つの都市との関係ではなく、大臣など国の要人を訪問するものでした。

準備では、在セネガル日本大使館の協力のもと、スケジュール調整を行っていましたが、相手方が国の要人であり、スケジュールを確定させるのも難しく、直前まで不安な気持ちがありましたが、在セネガル日本大使館がしっかりとサポートしてくださり、多少変更はありましたが、すべての行程を無事終えることができました。

私個人的には、令和6年度の人事異動でスポーツ振興担当の職員となり、まさか人生2回目の海外でセネガル共和国へ行くとは思ってもいませんでした。

セネガル共和国へは、トルコのイスタンブールを経由し、かなりの時間をかけて到着しました。到着し、マップの現在地を見るとこんなに遠いところに来たのかと始めは不思議な感じでしたが、日本と違う景色や町並みなどを見ていると徐々に実感が湧いてきました。

滞在したダカールは、セネガル共和国の首都であり、とにかく人が多くパワーを感じました。また、人々は明るく、やさしい印象を受けました。

現地で訪問したのは、産業・通商大臣、青少年・スポーツ・文化大臣、オリンピック委員会委員長、サッカー協会会長、輸出促進庁総裁などでしたが、温かく迎え入れてくださり、セネガル共和国、和泉市の取り組みや今後の交流について、さまざまな意見交換を行い、関係を深めることができ、実りあるものとなりました。

国の万博国際交流プログラムを活用し、令和6年度は小中学生を対象として万博・セネガル共和国に関する動画制作・配信、小学校でのワークショップ、音楽イベントなど取り組みを進めてきました。

令和7年度も引き続き万博国際交流プログラムを活用した取り組みを進め、2025大阪・関西万博を通して子どもたちを中心に、多くの市民がセネガル共和国を知ってもらえるよう、また、セネガル共和国の人々が和泉市のことを知ってもらえるよう取り組みを進めてまいります。

2025.3 作成
和泉市教育委員会事務局
生涯学習部 生涯学習推進室